

「感謝」



加藤 信人・妙子

カトウノブヒト
ダンスアカデミー経営

私達が、幸雄先生・多美子先生のお世話になったのは、私達が結婚して名古屋に住むことになり、半年もしない頃でした。学生時代に競技ダンスをしており、卒業後二度とダンスシューズを履くことはないと思っていました。しかし、結婚生活の退屈さに、再びダンスをやってみようと思い、豊田の兄に勧められ先生のお教室に伺うようになりまし。まだ建て替えられる前の、昭和時代そのものの懐かしい木造のお教室でした。

そこでお世話になり、子供二人も乳飲み児の頃から先生のお教室でダンス音楽を聞きながら育ちました。レッスンのときも、試合に行ったときも、いつも多美子先生が子供達のお守りをして下さったおかげで、私達はダンスに没頭することができました。

毎週土曜日の晩は、先生のお部屋でお酒を飲みながらダンスの話に花が咲き、つつい遅くまで、おじゃましていましたね。お料理も、このとき沢山教えていただきました。まだ結婚したてで、お料理のレパートリーも少なかった私に色々な料理のイロハを教えていただき、とてもありがたく思いました。お風呂も一緒に行きましたっけ。銭湯の楽しさも子供のとき以来、久々なので楽しかったですね。

試合の後も同じです。どうしてダンスの話になると、話が尽きないのか…。時間はいくらあっても足りませんでした。話の果ては、畳の上でホールドして踊りだしたり…。いつも楽しく過ごさせていただいておりました。時には今は亡き大先生（武男先生）や妹の邑子さんともダンス談義に花を咲かせたり、本当にダンスダンス…ダンスの楽しさ、奥の深さを教えていただきました。

夏休みに海や山へ、ご一緒させていただいたのも楽しい思い出です。皆で車に、ビールや食料を積み込んで夜中に出発し、わいわい楽しい時を過ごしました。私達の若き青春時代を青柳先生のお教室で過ごさせていただきました。本当にありがとうございます。感謝の気持ちでいっぱいです。

最後になりましたが、踏歴50周年パーティーおめでとうございます。これからも60年・70年と…、感謝。

青柳先生と私達



船越 義勝・智子

ダンススクールフナコシ経営

青柳幸雄先生、踏歴50周年まことにおめでとうございます。そして、それを支えてこられました多美子先生、心より敬意を表させていただきます。先生達の偉大さが身に染みてわかる私達（27年目を進行中）だからこそ、まず、祝辞を述べさせていただかないわけにはいきません。

私と先生達との最初の出会いは、1982年7月私が大学2年の夏、現在のアオヤギダンススクールに建て直すために、旧舎屋を取り壊して仮校舎に引越される時でした。当時4年生の先輩に連れられてそのお手伝いに伺ったのが、縁の始まりです。その翌年に現在の妻である智子をパートナーに得て、先生達の本格的な指導のもと学生競技ダンスにのめりこんでいきました。そして、さらに翌年の'84年12月学連生活最後の「全日本学生選手権」で、不器用な私が先生達の指導のおかげで準決勝（9位）に残ってしまったのです。これがきっかけで社会人になっても競技ダンスを続け、5年後の89年9月に中部日本アマチュアチャンピオンの栄に上ることができたのは、先生達のおかげであることは言うまでもないことです。そしてその翌月の10月には、結婚と悩んでいたプロ転向を決意し、ダンスを人生の糧とする生活が青柳先生御夫妻のもとで始まりました。

アオヤギダンススクールで御指導をうけた8年半の間には、プロ競技選手としては、A級昇級や中部日本選手権ファイナリストへの成長、教師生活においては、数回に渡る昇級試験及び生徒さんへの指導法や接し方など、技術面・精神面の両面にわたって多くの事を学ばせて頂きました。そのおかげで、98年4月には念願のダンススクールフナコシをオープンさせて頂くこともでき、現在に至っている次第であります。先生御夫妻のもとを巣立ってから、自分達に甘えが生じた時には、先生達の「自分に厳しかったお姿」を思い出し自分達をいましめて参りました。

そんな私達も、ついに体力の限界に至り、昨年末プロ競技選手を引退させていただきました。先生達に「チャンピオンになれる。ガンバレ」と期待して頂きながら、それを果たせなかったことが、唯一の心残りです。

青柳先生御夫妻は、今日まで中部ダンス界のフロンティアとして、又私達弟子や後輩の進むべき道標としてご活躍されて参りました。これからも私達は、先生の背中を追いかけてついて行きたいと思っておりますので、ますますお元気で中部ダンス界を引っ張って行ってくださいますようお願いいたします。

本日は、本当におめでとうございます。